

原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラムについて (案)

平成 27 年 9 月 28 日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核不拡散・核セキュリティ総合支援センター

1. 概要

日本原子力研究開発機構（以下「原子力機構」という。）では、原子力平和利用の推進に不可欠な核不拡散、核セキュリティに関する理解の増進を目的として、毎年、国際フォーラムを開催している（一般に公開）。本フォーラムでは、各国の政府関係者や核不拡散・核セキュリティの専門家による、時々の今日的な課題に焦点を当てた講演やパネルディスカッションを通じて、原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る種々の課題や方策について国内外の理解を深めるとともに、我が国及び原子力機構の核不拡散・核セキュリティへの取組を発信している。

2. 今年度のフォーラムの概要

(1) テーマ

原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム

－核セキュリティ・サミット以後の国際的なモメンタム維持及び核不拡散体制の強化に向けて（仮題）－

(2) 今年度のフォーラムの趣旨

原子力機構は我が国の核物質管理技術などの向上に資するとともに、国際的な核不拡散体制の強化に貢献することを目的に 2005 年に「核不拡散科学技術センター」を設置し、活動を進めてきた。また、2010 年 12 月には、同年 4 月の第 1 回核セキュリティ・サミットでの政府コミットメントに基づき、当機構内にアジア地域を中心とした核セキュリティ強化を目的とした「核不拡散・核セキュリティ総合支援センター」が設置され、以来、トレーニングやセミナー等を積極的に展開してきた。

現在、これらの二つのセンターは統合され、一体的に活動しているが、本年（2015 年）は、核不拡散活動及びアジア支援をスタートしてそれぞれ 10 年及び 5 年という節目を迎えている。

そこで、今年度のフォーラムでは、これまでの機構の活動を総括及び国内外へ広く発信するとともに、来春、最終となる第 4 回核セキュリティ・サミットを直前に控え、国際社会における核不拡散・核セキュリティの維持・強化が円滑に進展するための課題や方策について議論を行うこととする。

(3) 開催日

平成 28 年 2 月 9 日 (火)

10:00～12:00 : 開会挨拶及び基調講演

13:00～15:00 : パネルディスカッション 1

15:30～17:30 : パネルディスカッション 2

18:00～19:30 : レセプション

なお、翌日 10 日、同会場で核不拡散・核セキュリティの技術開発にかか
るシンポジウムも行う。

(4) 開催場所

時事通信ホール

東京都中央区銀座 5-15-8 (時事通信ビル 2F)

(5) 開催機関

主催：原子力機構

共催：日本国際問題研究所 (予定)、東京大学大学院工学系研究科 (予定)、
東京工業大学原子力国際共同研究センター (予定)

(6) 主なプログラム

1) 開会挨拶：原子力機構児玉理事長	10 : 00～10 : 10
2) 基調講演：海外有識者	10 : 10～10 : 40
3) 基調講演：海外有識者	10 : 40～11 : 10
4) 基調講演：日本政府要人	11 : 10～11 : 35
5) 基調報告：原子力機構の活動総括 (JAEA ISCN)	11 : 35～12 : 00
昼休み	
6) パネルディスカッション 1	13 : 00～15 : 00
7) パネルディスカッション 2	15 : 30～17 : 30
8) 閉会挨拶：共催機関	17 : 30～17 : 35
9) レセプション：原子力機構 吉田理事 (開会挨拶)	18 : 00～19 : 30

(7) パネルディスカッション

オバマ米大統領が、「核テロは地球規模の安全保障に対する最も緊急かつ最
大の脅威である」として 2010 年に始まった核セキュリティ・サミットが 2016
年にワシントン DC で第 4 回が開催される予定であり、これが最後のサミット
になる。他方、2015 年 7 月にイランの核開発に係る米英口などとの 6 カ国の
協議は最終合意に達し、核不拡散に関して大きな動きがあった。こうした状況
を踏まえ、以下、二つのパネルで議論を行う。

1) パネル 1：核セキュリティ・サミット以後の国際的なモメンタム維持につ

いて

趣旨

来年、米国で第4回目が開催される「核セキュリティ・サミット」は、今回で終了となり、このサミット終了後に核セキュリティに関する国際的なモメンタム（勢い）をどう維持していくのかについて国際的に多くの議論がなされている。このパネルでは、核セキュリティをめぐる国際動向のレビュー（引き続き核セキュリティの強化は不可欠）や核セキュリティ・サミット・プロセスの成果のレビューを行い、その後、サミット・プロセス終了後の核セキュリティ強化に何をしていかなければならないか、どのようにそのモメンタムを維持するかについて議論する。

座長

- ✓ 海外有識者

パネリスト

- ✓ 米国国家安全保障会議（NSC）
- ✓ IAEA 核セキュリティ部
- ✓ 核セキュリティ関連のシンクタンク専門家
- ✓ 原子力規制委員会
- ✓ 原子力機構 核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）

2) パネル2：核不拡散体制の強化に向けて－明日への展望を探る－

趣旨

核不拡散と原子力平和利用に係り、主に2000年以降の動向と国際社会の種々の取組みを振り返るとともに、未解決の課題や、今後国際社会が核不拡散体制強化のために取り組むべき、あるいは取り組むことができる課題を摘出し、それらに係り、現在どのように取り組み、また今後どのような取り組みが可能か等について議論する。

座長

- ✓ 国内有識者

パネリスト

- ✓ IAEA 保障措置局
- ✓ 米国エネルギー省国家核安全保障庁(DOE/NNSA)
- ✓ 欧米シンクタンク研究員（イラン情勢に詳しい方）
- ✓ 外務省
- ✓ 原子力機構 核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）

以 上

過去の国際フォーラムのテーマ

開催年月	テーマ	参加人数	共催機関
平成 18 年 2 月	核不拡散政策研究の紹介、原子力活動の透明性と技術	約 160 名	
平成 18 年 5 月	核不拡散と原子力平和利用の将来展望、核不拡散・保障措置技術、核拡散抵抗性の高い原子力システム技術開発の現状と将来展望	約 340 名	
平成 19 年 10 月	核不拡散と原子力の平和利用 －将来のための新しいアプローチの模索－	約 270 名	(公財) 日本国際問題研究所
平成 20 年 6 月	アジア地域における原子力平和利用の推進と核不拡散の両立	約 230 名	東京大学 GCOE
平成 21 年 12 月	NPT の 3 本柱、保障措置、核セキュリティ・核拡散抵抗性、核燃料サイクルの多国間管理	約 260 名	(公財) 日本国際問題研究所 東京大学 GCOE
平成 23 年 2 月	NPT の 3 本柱、核セキュリティ、原子力平和利用協力における核不拡散確保	約 300 名	(公財) 日本国際問題研究所 東京大学 GCOE
平成 23 年 12 月	原子力平和利用と核セキュリティに係る国際フォーラム - 福島原子力事故を踏まえた原子力施設における核セキュリティ、原子力安全と核セキュリティの統合的アプローチ -	約 300 名	(公財) 日本国際問題研究所 東京大学 GCOE
平成 24 年 12 月	原子力と核不拡散、核セキュリティに係る国際フォーラム - 核燃料サイクルのバックエンドにおける核不拡散、核セキュリティ確保とアジアにおける地域協力-	約 200 名	(公財) 日本国際問題研究所 東京大学
平成 25 年 12 月	原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム －東電福島第一原子力発電所事故を踏まえた、今後の核燃料サイクルのオプションに係る核不拡散・核セキュリティの確保－	約 200 名	(公財) 日本国際問題研究所 東京大学

平成 26 年 12 月	原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム ーエネルギー基本計画を受け今後の核不拡散向上のための方向性及び人材育成 COE のあり方についてー	約 150 名	(公財) 日本国際問題研究所 東京大学、東京工業大学
--------------	---	---------	-------------------------------